

【蜂刺されによる救急統計について】

夏は蜂刺されによる救急搬送が多発します。

場合によってはアナフィラキシーショックなどによって重症化する恐れもあることから、過去の救急統計を基に注意すべきポイントを取りまとめましたので、お知らせします。

※ アナフィラキシーショックとは、蜂の毒などのアレルギーを起こす物質に身体が暴露されることで、全身性のアレルギー反応が引き起こされる状態を言い、全身のじんましん、咳、吐き気や嘔吐、下痢、腹痛、さらに血圧低下や呼吸困難、意識障害をきたし、場合によっては心停止に至ることもあります。

※ 統計は、2015年から2019年までにおける蜂刺されによる救急搬送人員の内訳

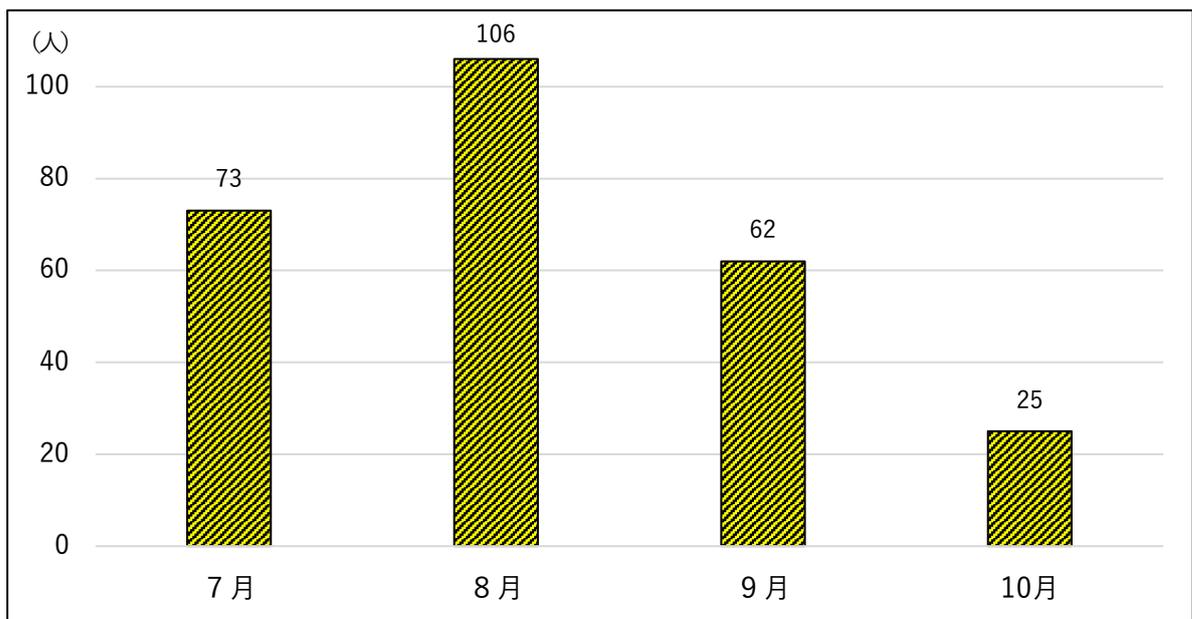
※ 小数点を含むものは、小数第二位を四捨五入した数値

1 救急搬送人員

郡山消防本部管内で、過去5年間（2015年から2019年まで）に蜂刺されにより295人が救急搬送されています。

特に7月から10月までの間には266人（90.2%）が救急搬送されており、そのほとんどが夏場に集中していると言えます。

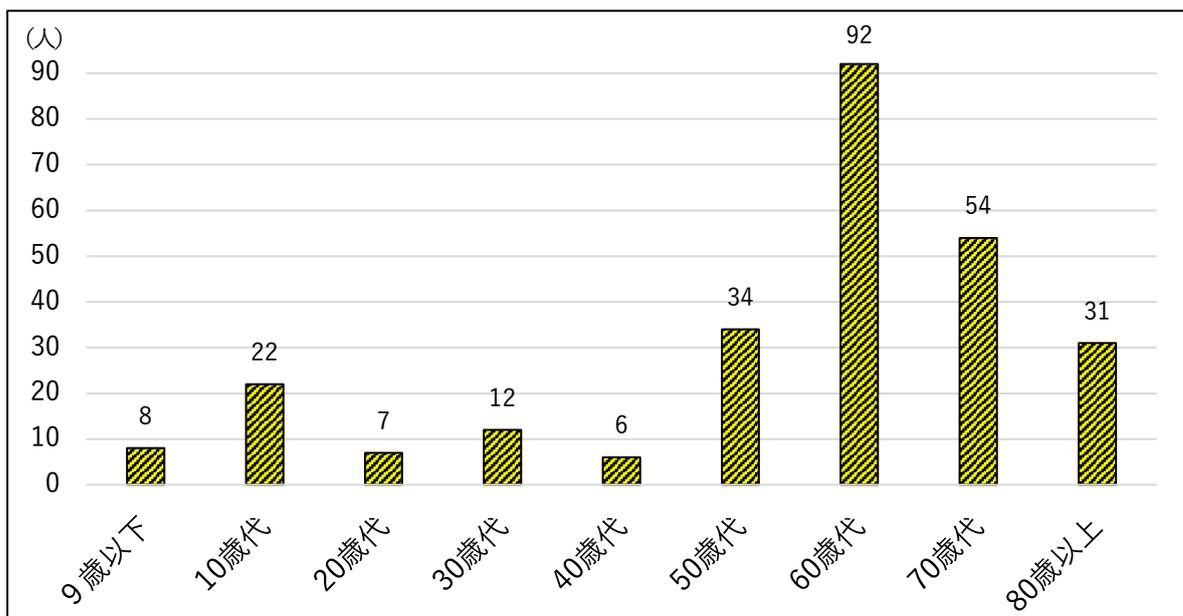
救急搬送人員を月別にみると、8月が最も多く106人（35.9%）、次いで7月が73人（24.7%）、9月が62人（21.0%）と続きます。



2 年代別の救急搬送人員

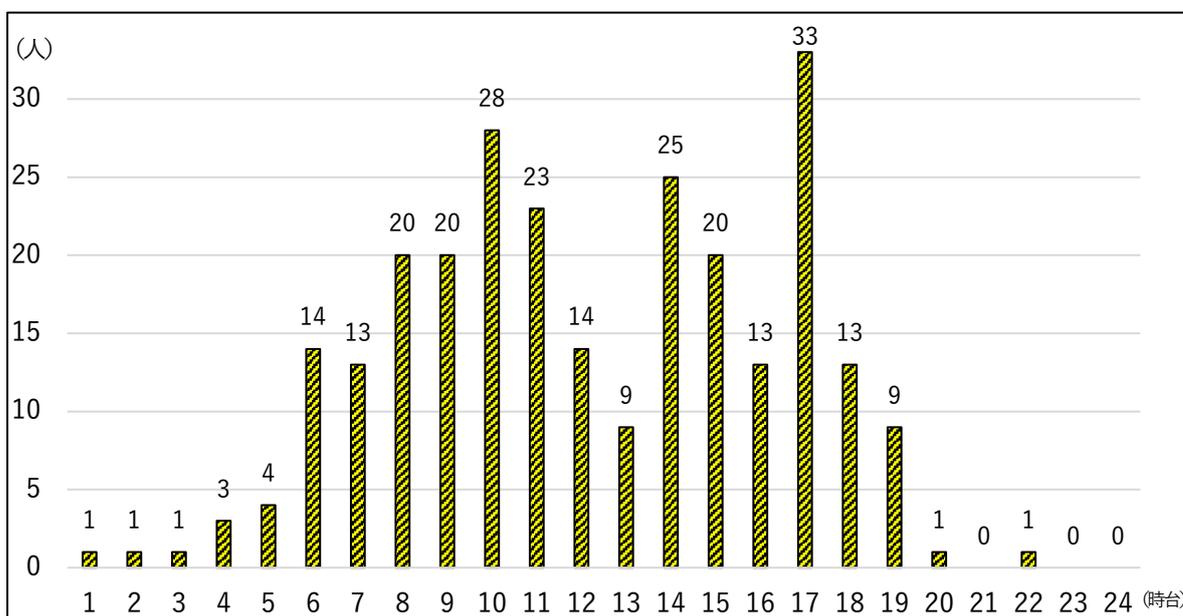
過去5年間の7月から10月までの蜂刺されによる救急搬送人員を年代別にみると、「60歳代」が最も多く92人(34.6%)、次いで「70歳代」が54人(20.3%)、「50歳代」が34人(12.8%)と続きます。

50歳代以上が全体の79.3%(211人)を占めています。



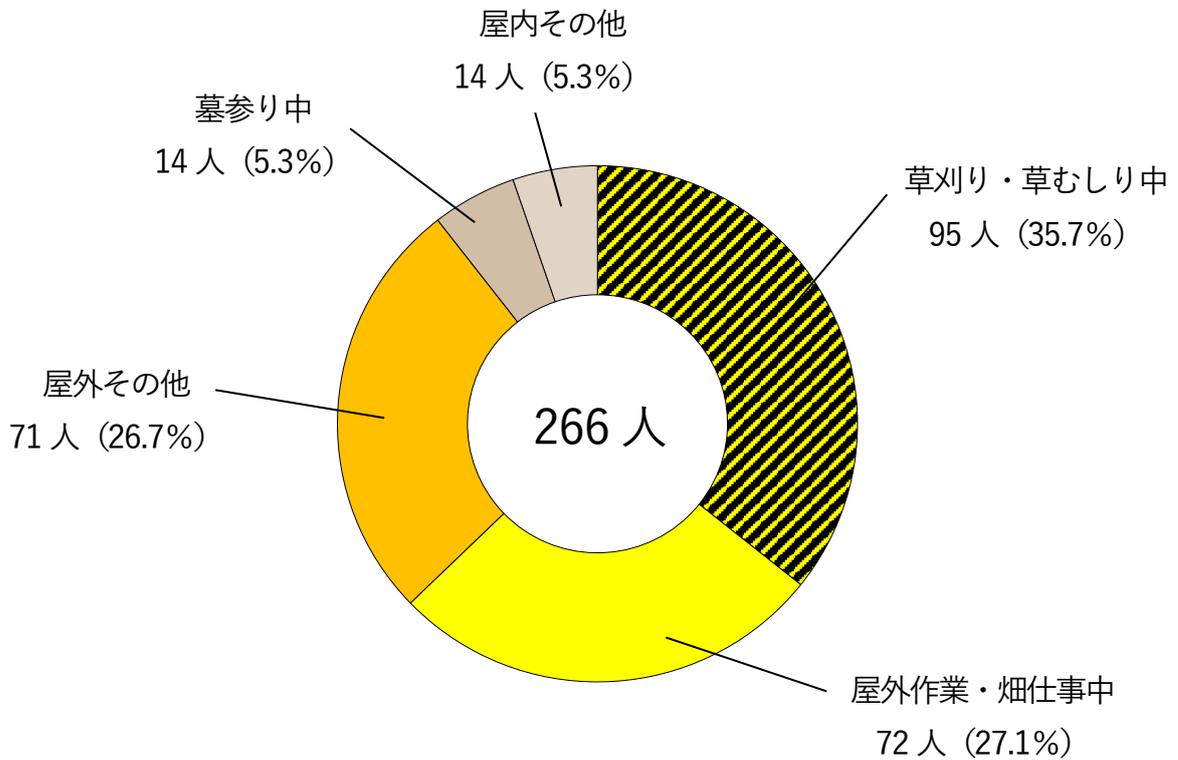
3 時間帯別の救急搬送人員

過去5年間の7月から10月までの蜂刺されによる救急搬送人員を時間帯別にみると、「17時台」が最も多く33人(12.4%)、次いで「10時台」が28人(10.5%)、「14時台」が25人(9.4%)と続きます。



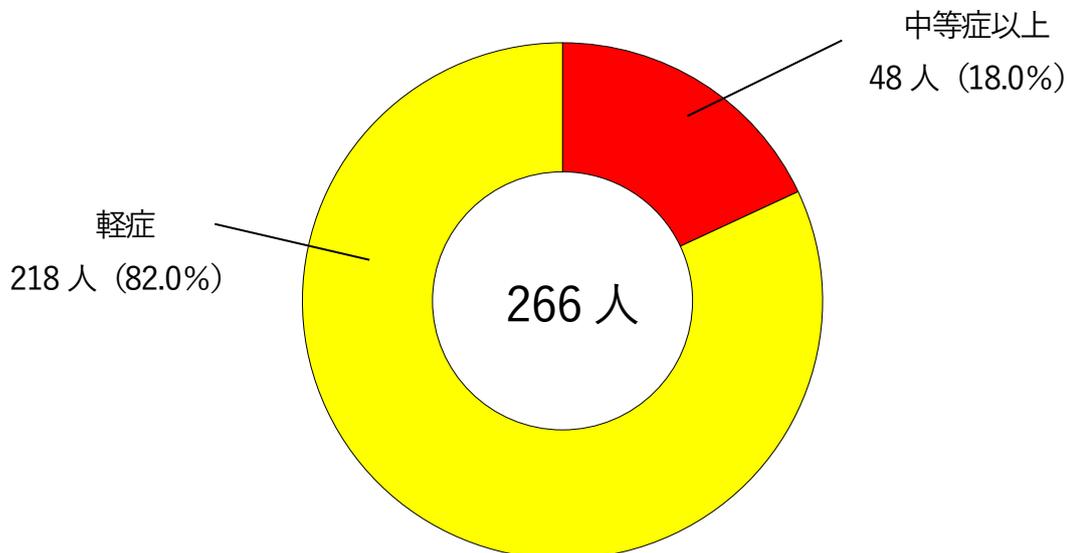
4 蜂に刺された時の行動

過去5年間の7月から10月までの蜂刺されによる救急搬送人員が、何をしている時に蜂に刺されたのかをみると、「草刈り・草むしり中」が最も多く95人(35.7%)、次いで「屋外作業・畑仕事」が72人(27.1%)、「屋外その他」が71人(26.7%)と続きます。



5 初診時の傷病程度

過去5年間の7月から10月までの蜂刺されによる救急搬送人員の病院での初診時の傷病程度をみると、18.0%(48人)が入院の必要のある「中等症」以上と診断されています。



6 蜂に刺されないためのポイント

草刈りや畑仕事、屋外活動、野山などに出かける際は、なるべく長袖、長ズボン、帽子を着用しましょう。この場合、熱中症にも十分注意しこまめに水分補給をしましょう。

蜂は大きな音や振動などの刺激を受けることで、興奮して攻撃性を増すと言われています。蜂を見かけた場合は、決して手で払ったり駆け出したりせず、ゆっくりとその場を離れましょう。

素人が蜂の巣を駆除しようとして蜂に刺される事例も多くあることから、必ず専門業者に相談しましょう。

洗濯物などに紛れ込み屋内に蜂が侵入し刺される場合があります。洗濯物を取り込む際には十分注意しましょう。蜂が屋内や車内に侵入してきた時は、窓を開けて外に出ていくのを待ちましょう。蜂は明るい方向に向かう習性があります。

7 蜂に刺された場合の処置

蜂に刺された場合は、まず傷口を流水でよく洗い流し、その後は安静にして様子を見ましょう。

息苦しさや口の渇き、冷や汗、めまい、じんましん、嘔吐、しびれ、血圧低下などの症状が現れた場合は、速やかに病院で診察を受けるか 119 番通報しましょう。